

2 子ども達のまとめ

(1) 自然グループ

中浜漁港の未来

僕は、中浜地区に住んでいます。釣りをすることが好きで、幼い頃から、近くの中浜漁港で釣りをよくしてきました。そこで、中浜漁港にどんな生き物がいるのか気になり、漁港の漁師さんに聞いたり、漁業船をしている父に聞いたりしました。

調べて分かったことは、黒鯛、メバル、鰹、イカ、カサゴなどの生き物が多いことが分かりました。しかし、最近、昔と比べてびっくりするほど魚が少なくなっていることが分かりました。以前は、サメも来て、釣っている人もいたそうですが、今は、ほとんど見かけなくなったそうです。

この勉強を通じて、中浜漁港周辺で見かける海の生き物の数が、少しずつ減ってきているのだなと思いました。特に、最近では、アオリイカを釣りすぎて親のイカがいなくなり、イカの数が減っているそうです。本当はリリースすることが推奨されていますが、釣ったらほとんどの人が持ち帰っているそうです。僕は、ほとんどのイカをリリースしたらいいなと思いました。僕は、宇川に様々な生き物が来てほしいです。そのために、海の生き物を獲り過ぎず、リリースするなど資源を大切にできる工夫ができればいいなと思いました。そして以前のようなたくさんの生き物がいる宇川になってほしいです。



宇川のきれいな海を守るために

私は、宇川の海がきれいに見えるスポットとゴミ問題について調べました。きっかけは、フィールドワークで高嶋海水浴場へ行き、地域の方のお話で自分が住んでいる宇川に、海がきれいに見える場所があることを知ったことと、宇川の海がゴミで汚れてきている事を知って、自分が海を守るために何ができるのかということに興味をもったからです。

海がきれいに見えるスポットについて、全校児童にアンケートをとって調査した結果、1位は、宇川温泉吉野の里、2位は、経ヶ岬灯台、3位は、久僧の海でした。私がおすすめるスポットの1つ目は、『宇川温泉吉野の里から見える海』です。ここは、温泉施設で、露天風呂が、海側と山側にもあり、海側の露天風呂に入った時に見た夕日の映る海はとってもきれいです。2つ目は、『経ヶ岬灯台から見える海』です。ここは、日本で5台しかないフレネルレンズを使っていて、京都百景にも選ばれています。登山をしないとたどり着けないほど、高い場所にあり、海全体を見渡すことができます。3つ目は『いかり高原牧場から見える海』です。ここでは、ヤギやポニーなどの生き物と触れ合うことができます。高原越しに見える海は、穏やかできれいです。

次に、ゴミ問題についてです。私は、高嶋海水浴場へフィールドワークに出かけ、海について詳しい地域の方に、海の現状を教えてくださいました。砂浜には、ペットボトルをはじめ、日用品や釣り具など大量のゴミが流れ着くそうです。特に最近では、注射器が大量に流れ着いているそうで、怖いと思いました。そして、プラスチックが分解されてできたマイクロプラスチックゴミは、自然に帰らないので、いつまでも海中を漂っているそうです。

私は、このまま海が汚れていくのは、いけないと思ったので、自分にできる事を考えました。1つ目は、必ずゴミを持ち帰ること。2つ目は、出たゴミをできるだけ分別すること。3つ目は、出来るだけゴミを出さないこと。4つ目は、海岸清掃にチャレンジするなど、身近な所から取り組みたいと考えています。私は、何十年先も、もっともっと先も、海がきれいであるために、先ほどの4つの自分にできる事に取り組んでいきます。右下のキャラクターは、何十年先もずっと、海が綺麗であってほしいという思いを込めて描きました。



大切にしたい依遅神社（いちじんじゃ）と依遅ヶ尾山（いちがおさん）

宇川には、遠下（おんげ）という地区があります。遠下には、依遅ヶ尾山という山があります。その山は、僕の家近くなので、調べてみることにしました。

依遅ヶ尾山は、関西百名山に選ばれています。高さは、約 540m あり、青木や桜などが生えていて、山頂に行くときれいな日本海が見えます。昔は、山がく信仰と言って、修行の場でもあったそうです。また、その信仰の対象とされた神社は、依遅神社と言い、元々は山頂にあったそうですが、今は、ふもとに移されています。

依遅神社には、たくさんの魅力があります。依遅神社は、平安時代の書物には、神社の名前がのっており、とても古い歴史があります。今の本殿は、1842 年に再築したものだそうです。また、本殿内にある竜の彫刻は、彫り師の名前が彫られており、非常に珍しいものだそうです。神社には、「奉納舞」としての伝統的な踊りがあり、京都府の無形文化財に指定されています。

（踊りの名前） （踊り手）

- ① 太刀振り・・・・・・・・成年男子 6 人
- ② つゆはらい・・・・・・・・少年 2 人
- ③ ちいらい踊り・・・・・・・・幼年 2 人 園年 2 人 少年 2 人

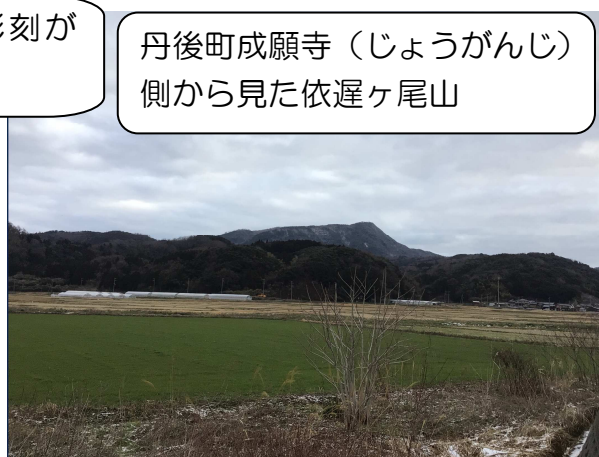
（踊りをする周期）

- ④ 三ばんそう・・・・・・・・8 年に 1 度。上宇川の祭り当番として遠下地区が当たる年
また、神社の鳥居には、白いへびがすんでいるという伝説があります。

僕は、自然豊かな依遅ヶ尾山や地元の大変な依遅神社が、この先ずっと残って欲しいです。また、この文を読んで興味を持って頂いた方に訪れてほしいです。



ここに龍の彫刻があります。



丹後町成願寺（じょうがんじ）
側から見た依遅ヶ尾山

宇川の山について

僕は、宇川の山へお父さんとよく行くので、山にはどんな動物が住んでいるのか興味をもち、調べました。

調べて分かったことが2つあります。1つ目は、動物のことです。宇川の山には、イノシシやクマ、キツネをはじめ、たくさんの動物がいることを知りました。その数は、約15種類です。しかし、ぼくは、人間の生活にとって、よい動物ばかりではないことを知りました。サル、シカ、イノシシ、ヌートリア、タヌキなど、約9種類の動物は、作物を食べたり、田畑を荒らしたりするそうです。

2つ目は、獣害対策のことです。左下の写真を見てください。動物たちがすむ山と人が住む場所が、金網で分けられています。動物たちに、「ここからは、人間が住む場所で、あなたたちが来る場所ではないよ」と知らせているそうです。そして、金網の上には、電線が3本通っていて、サルに「これ以上入ってこないで」と伝えているそうです。また、金網の下には「返し」というものが埋めてあります。返しは、イノシシが地面を掘っても山から畑に入れないようにするものです。僕は、これらのことを聞いて、いろいろな工夫がされていて、すごいと思いました。宇川の獣害対策について、くわしく知ることができてよかったです。

動物が山から下りて来るようになった理由は、2つあるそうです。1つは、山に人が入らなくなったこと。約50年ほど前までは、木をいろいろな燃料に使っていたので、たくさんの人が山に入っていたので、動物は、さらに山奥で生活していたそうですが、人がいなくなったことで下りて来るようになったそうです。もう1つは、どんぐりの木など、元々生えていた木をばっさいして、人が利用できる杉の木をたくさん植えたことで、動物の食べ物が無くなったからだそうです。ぼくは、どんぐりの木を植えるなどして、動物の食べ物がたくさんある元々の山に戻すことで獣害を減らし、動物と人間が共に生活できる里山にしたいと思いました。



(2) 食べ物グループ

アユの魅力と課題

平地区の宇川という川には、4月頃、川と海の水温が同じぐらいになったら、天然のアユが海から上がってきます。京都府でも、天然アユが上ってくる川は少なく、そこが他の地域と違う良い魅力だと思ったので調べることにしました。それと同時に、最近、川や海でゴミをよく見かけるので、ゴミ問題についても調べました。

地域の方の話によると、アユの寿命は、1年間だそうです。4月に上ってきたアユは、10月の終わり～11月頃に産卵するそうです。卵は、1週間ほどでふ化し、海へ下りていきます。産卵を終えた親アユは、死んでしまいます。毎年、6月の終わりくらいから、アユ釣りが解禁され、17～18センチほどのアユが釣れるそうです。アユは、縄張り意識が強いので、おとりのアユを使った「友釣り」という方法で釣ります。10年ほど前の京都府の調査によると、約10万匹のアユがいることが分かりましたが、年々その数は減っているそうです。実は、アユには別の名前があります。あまり知られていないようですが、「清流の女王」といいます。そう呼ばれる訳は、太陽にうろこを反射させる美しい様子から、その名前が付いたそうです。

以前は、宇川の川や海は、とってもきれいでした。しかし、最近は、川や海にゴミが落ちているのを見かけます。例えば、川には、ペットボトルが捨ててあるのを見かけます。海では、最近、注射器が流れ着くことを聞いたり、魚釣りのあとの針を砂浜に埋めたりする人を見たこともあります。また、マイクロプラスチックゴミも多いです。その他にも、道路にお菓子の袋やタバコのゴミ、ジュースの空き缶など数えきれないほどゴミが捨ててあります。

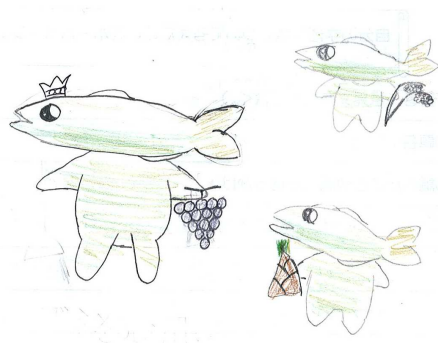
本来、川や海は、私が調べたアユをはじめ、川や海の生き物がすむ場所です。そのようなところに、ゴミがあると生態系に影響が出てしまいます。だから、私は、川や海で遊んだときは、自分が出したゴミはきちんと持ち帰ることを心掛けたいです。また、買い物の際に、レジ袋をもらわないことで、ゴミを減らし、環境を守ることに繋がると思うので取り組みたいです。

宇川についていろいろ調べて、私は、宇川に生まれてよかったと思いました。近くにお店が無く不便ですが、アユがすむ川があり、すてきなところだからです。そこで、アユがどんどん宇川に来るようにという願いを込めて、右下のキャラクターを描きました。

大きいの・・・あゆのさん

右上・・・あゆめさん

右下・・・あゆりさん



たけのこについて

宇川の山には、たけのこや竹がたくさん生えています。そして、ぼくは、たけのこご飯をよく食べるので、たけのこのことを調べてみることにしました。ぼくは、フィールドワークを通して、たけのこについてとても詳しい方から、井上地区のたけのこについて色々と学びました。そこで、たけのこには、孟宗竹や破竹、真竹などの種類があることを知りました。また、竹は、楽器や灯ろうなどに姿を変えることを知りました。一番印象に残っているのは、竹を割いて作った魚などを干す道具です。これで、山で採ったわらびを少し干すと、とてもおいしくなるそうです。色々な工夫がされていて、すごいと思いました。また、たけのこは、たけのこご飯、和風スープにすると、とてもおいしいです。

ただ、最近、竹やぶに問題が起きていることを知りました。放置竹林です。竹やぶは、放っておくと、竹が生えすぎて、人が入れない状態になります。そうすると、たけのこが生えても獲れなくなってしまいます。竹やぶを整備して、竹やぶの中に日光が当たる状態を保つ必要がありますが、整備する人がいないため、竹がたくさん生えたままになっているそうです。調べた井上地区では、地域の方が、時々、竹を切って整備しているそうです。

ぼくは、このホームページを通して、たくさんの人に、宇川のたけのこのことを知ってほしいです。ぼくは、これからもたけのこの魅力を多くの人に伝えていきたいです。また、宇川には、たけのこ料理以外に、たくさんのおいしい食べ物があります。ぜひ宇川のおいしい食べ物を食べにきたり、きれいな山を見に来たりしてください。



きれいな棚田とおいしいお米について

私は、宇川に来て初めて知ったことがあります。それは、宇川には、棚田があることです。実際に見に行って、とてもきれいだと思いました。また、宇川のお米が、とてもおいしかったことです。だから、初めて食べた時は、そのおいしさに、とてもびっくりしました。だから、私は、宇川のきれいな棚田とおいしいお米について調べることにしました。

棚田というのは、山のななめの場所に、階段状に作られている田んぼのことです。田んぼの形も、大・小ばらばらになっています。だから、棚田で稲を作るのは、平地に比べて、とても大変なことです。宇川の棚田は、袖志というところにあります。袖志の棚田は、有名で、日本の棚田百選に選ばれています。棚田は、雨が降った時に、田んぼが水をためるダム役割を果たします。だから、水害を防ぐことができます。宇川のお米の収穫時期は、9月～10月頃です。宇川のお米は、「丹後宇川産コシヒカリ」といいます。特に、新米は、甘くておいしいです。

私は、宇川のお米が、1番おいしいと思います。私の祖父も、コシヒカリを作っているのので、そのお米をほぼ毎日食べています。とてもおいしいと思っていましたが、お米について詳しく調べて、より深く知ることができ、以前に比べ、もっとおいしいと思うようになったからです。私は、大人になっても、毎日、宇川のお米を食べたいと思いました。また、袖志にある棚田も、私が大きくなったら、また見に行きたいと思いました。

これから先も、今のようにお米がたくさん収穫できる宇川であってほしいです。そして、これからも袖志の棚田でのお米作りが続いてほしいです。



久僧の田んぼ。
100年ほど前は、約200枚の棚田があったそうです。



袖志の棚田。
夕日に照らされて、きれいです。
奥に見えるのが、日本海です。